

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2025年9月9日(火)19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

- 一般講演抄録 1 -

骨格性Ⅲ級に対して包括的治療を行い機能・審美的に改善を図った一症例

陶山 新吾 陶山歯科医院 〒830-0023 福岡県久留米市中央町 11-9

■抄録

骨格性Ⅲ級症例に対する治療は、骨格的要因の強さや審美的要求の高さ、咬合の再構築の難しさなど、診断から治療計画立案、実行に至るまで多くの困難を伴う。特に外科的矯正の適応判断や、矯正単独でのカモフラージュ治療の限界、前歯の唇側傾斜に伴う顔貌への影響などは慎重な配慮を要する。また、長期的な機能安定性と審美性の両立を図るためには、補綴処置も含めた包括的な治療設計が不可欠である。

患者は初診時 49 歳男性、他院にて根管治療を受けるも症状が改善しなかったため当院を受診した。全顎的に歯冠修復治療が行われており、その全てが不適合修復物及び二次う蝕であった。反対咬合によるアンテリアガイダンスの欠落が、現状を引き起こした原因の一つであると診断した。セファログラム分析では、下顎前突を主体とした骨格性Ⅲ級と診断した。前歯部の切端位が得られたため外科的矯正を行わず、矯正単独でのカモフラージュ治療を行い前歯部の被蓋を獲得した。矯正治療後は、ラミネートベニアおよびオクルーザルベニアにより患者の満足する機能と審美性の回復を図ることができた。外科的介入を回避しつつ、矯正と補綴を連携させた包括的治療によって良好な結果が得られたため報告する。皆様のご意見を伺いたい。